

私のまちの台所事情

平成19年8月、市は、『中期財政見通し（平成19年度～平成22年度）』を発表しました。
 この見通し期間の収支では、不足額の累計が28億2千万円に上ると試算され、現在、この解消を図るためのさまざまな取り組みを進めています。
 今月号の特集は、平成19年度に実施した『財政健全化に向けた取り組み』について、お知らせします。

登場人物紹介



Qさん 首都圏の民間企業に勤めていたが、親の家業を継ぐため、妻子とともに昨年ふるさと登別にUターン。登別市のまちづくりにも協力したいと考えている。



Aさん 市役所に勤めて21年目。市の財政に精通するベテラン。Qさんとは高校時代の同級生で、一緒に柔道部で汗を流した仲間。

どうして、まちの財政は厳しくなったの?!



久しぶり。Qさんとはちょうど1年ぶり『昨年の広報のぼりべつ12月号の「まちの台所事情」で特集しています』になるよ。



そうだよ。あのときは登別にUターンしたばかりだったから、このま

ちの暮らしも1年になるよ。今日は、『中期財政見通し（平成19年度～平成22年度）』に書いてあった『財政健全化に向けた取り組み』が順調に進んでいるか、君に聞こうと思って来たんだ。今年夏に市長選挙もあったし、



市の財政状況がいろいろと話題になったよね。「どうしてこんなに厳しくなったんだ？」って疑問の声は聞くけど、はっきりとした答えがみんな分かっているようなんだ。

だから、はじめに、なぜ『見通し』期間の4年間で約28億円もの収支不足になるほど市の財政が厳しくなったのか、そこから、もう一度、簡単に説明してくれよ。



簡単に説明するっていうのが、一番難しい…。市の財政が厳しくなった要因は、さまざまあるからね。

けれど、特に大きな影響を及ぼしているものに絞って挙げてみるね。